



2018.11 発行  
宮崎県病院局  
日建・コラム設計業務共同企業体

## 県立宮崎病院





県産材を活用した1階エントランスホール

### 新病院施設再整備の基本方針

#### ■診療機能を効率的に発揮できる機能的な病院

- 各部門の連携強化や患者・スタッフの負担軽減を考慮した機能的な部門配置を施すと共に、最新の医療技術や医療ニーズに対応するため、病室や手術室等の十分なスペースの確保や、個室病床・手術室・集中治療室等の拡充を図る。
- 将来の医療技術の進展等にも対応できるよう、医療機器が設置可能な大型手術室の新設や、新型検査機器・医療機器導入に必要な増築スペースを確保し、間仕切りの変更がしやすい等、フレキシビリティの高い施設整備を図る。

#### ■安心・安全で災害に強い病院

- 事故発生の防止と医療の質の確保を図るなど、医療安全に配慮した施設とする。
- 大規模災害時において、地域住民に必要な医療を継続して提供できるよう災害時の活動スペースを確保するなど、災害発生時に迅速な対応ができる防災機能に優れた施設とする。また、洪水が発生した際にも病院機能が低下しないような施設構造を採用する。

#### ■患者・家族等利用者の視点に立った病院

- 患者・家族のプライバシーを確保するための病室の個室化や相談室の拡充、患者アメニティーの充実のための売店や喫茶スペース等の拡充、また、高齢者等が安全に利用できるようユニバーサルデザインに配慮した施設構造など、患者本位で利用しやすく、快適に診断や治療が受けられる病院づくりを目指す。

#### ■環境にやさしくコストパフォーマンスの高い病院

- 施設整備にあたっては、病院建築の維持に必要な、短期・中期スパンで発生する改修工事費や設備機器の更新費用を設計段階から意識し、初期コストの合理化に努める。
- 新病院の機能の拡充に伴う運営に要するエネルギーの増大に対して、経営に悪影響を及ぼさないよう、メンテナンス性の高い材料の選択や、省エネルギー設備システムを採用し、ランニングコストの低減を図る。

### 事業スケジュール

2019年5月	新病院棟工事着手	2021年10月	既存棟改修・解体工事着手
2021年9月	新病院棟工事完成	2022年11月	改修・解体工事完成、外構工事着手
2022年1月	新病院開院	2023年3月	外構工事完成(事業完了)

### 建築概要

所在地	宮崎市北高松町 5-30	新病院 概要	
敷地面積	36,112.99 m <sup>2</sup>	構造	鉄骨造(免震構造)、鋼管巻場所打ちコンクリート杭
都市計画区域	都市計画区域内(市街化区域)	階数	地上8階、塔屋1階
用途地域	第二種住居地域	建物高さ	43.272m
防火地域	指定なし(建築基準法第22条地域)	病床数	490床 (一般病室 392床、ICU14床、NICU3床、GCU12床、 第二種感染病床6床、無菌病床8床、 救急病棟20床、精神病棟35床)
地区計画等	指定なし	外来部門	ブロック受付型(外来ブロック数9)
許容容積率	200%	救急部門	三次救急医療
許容建蔽率	60%	手術部門	手術室10室(ハイブリッドOP1室、BCR2室含む)
主要用途	病院	放射線部門	一般5室、X-TV2室、CT2室、MRI2室、歯科1室、 マンモグラフィ1室、アンギオ2室、ESWL1室、 SPECT1室、放射線治療2室、位置決めCT1室
建築面積	14,347.45 m <sup>2</sup> 建蔽率 39.73%		
延べ面積	60,059.60 m <sup>2</sup> (新病院 47,582.72 m <sup>2</sup> )		
容積対象面積	51,300.71 m <sup>2</sup> 容積率 142.06%		
駐車台数	597台(内、立体駐車場 297台)		

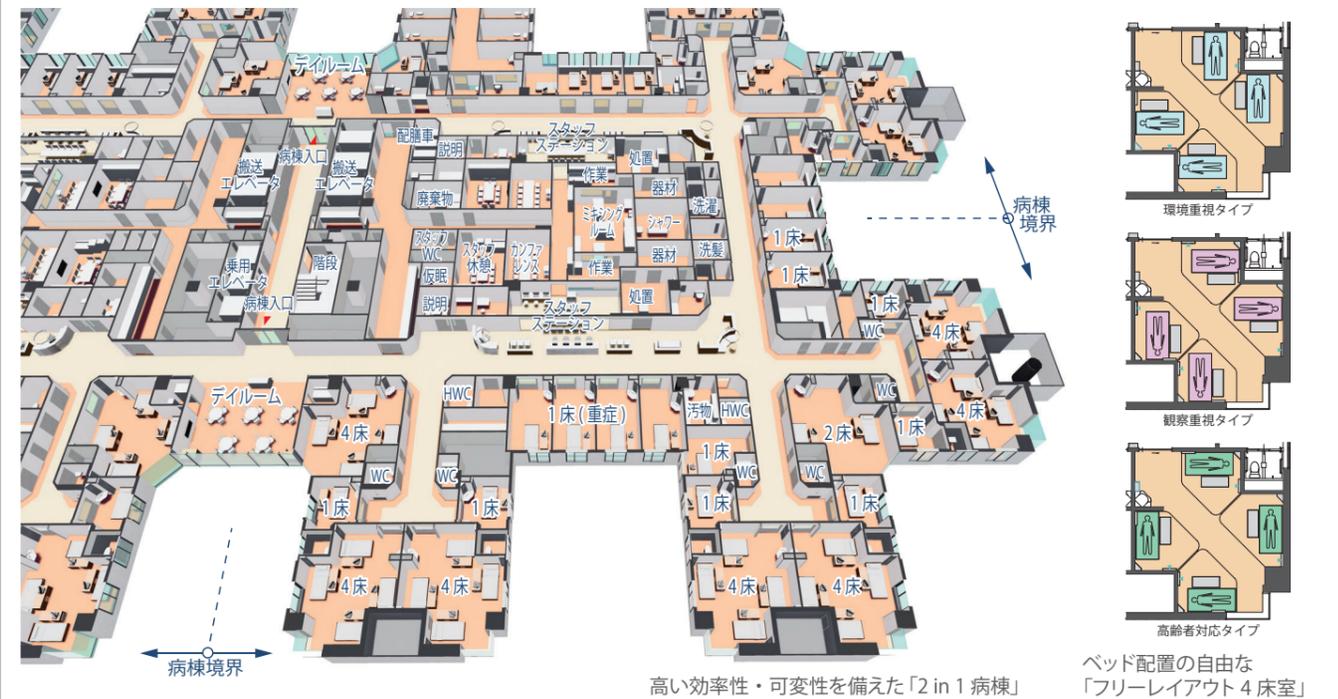
### 病棟・病室の計画

#### ■2病棟のスタッフステーションを一体化した「2in1病棟」、1フロア4病棟による機能・患者サービスの向上

- 1フロア4看護単位(1看護単位39床~44床)からなる病棟を計画します。
- 南北2つのスタッフステーションを一体化した「2in1病棟」で、ミキシングルームや廃棄物庫などのユーティリティを共用化し、業務とスペースの効率化を図ります。
- 搬送エレベータをスタッフステーションに直結し、物品搬送とスタッフ移動を迅速化します。
- スタッフ休憩、仮眠、スタッフ用トイレをステーション内に設け、労務環境向上に配慮します。
- スタッフステーションの直近に個室、ウィング部分に4床室を配置し、看護動線の短い急性期対応型病棟を実現します。
- 2病棟連続の病室配置により、病室数の増減にも柔軟に対応。またウィング部の4床室は将来の個室化にも対応します。
- 各病棟入口はセキュリティを設定し、安全性に配慮します。
- 4床室は患者容体に応じてベッド配置を自由に変更できる、「フリーレイアウト4床室」を採用します。



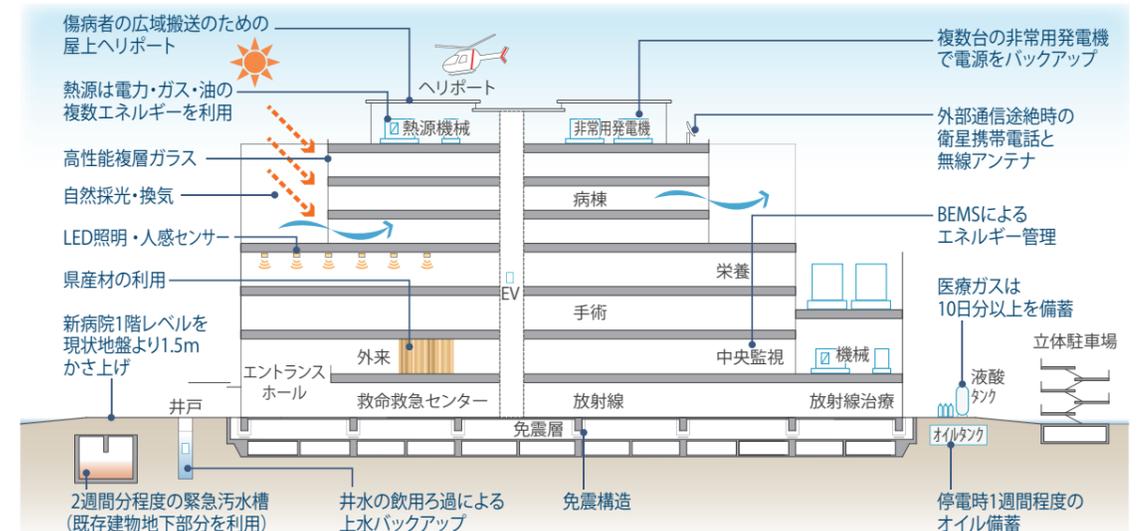
見通しのよいスタッフステーション



### 災害に強く、環境にやさしい病院

#### ■基幹災害拠点病院としての安全性強化と、環境負荷低減の取り組み

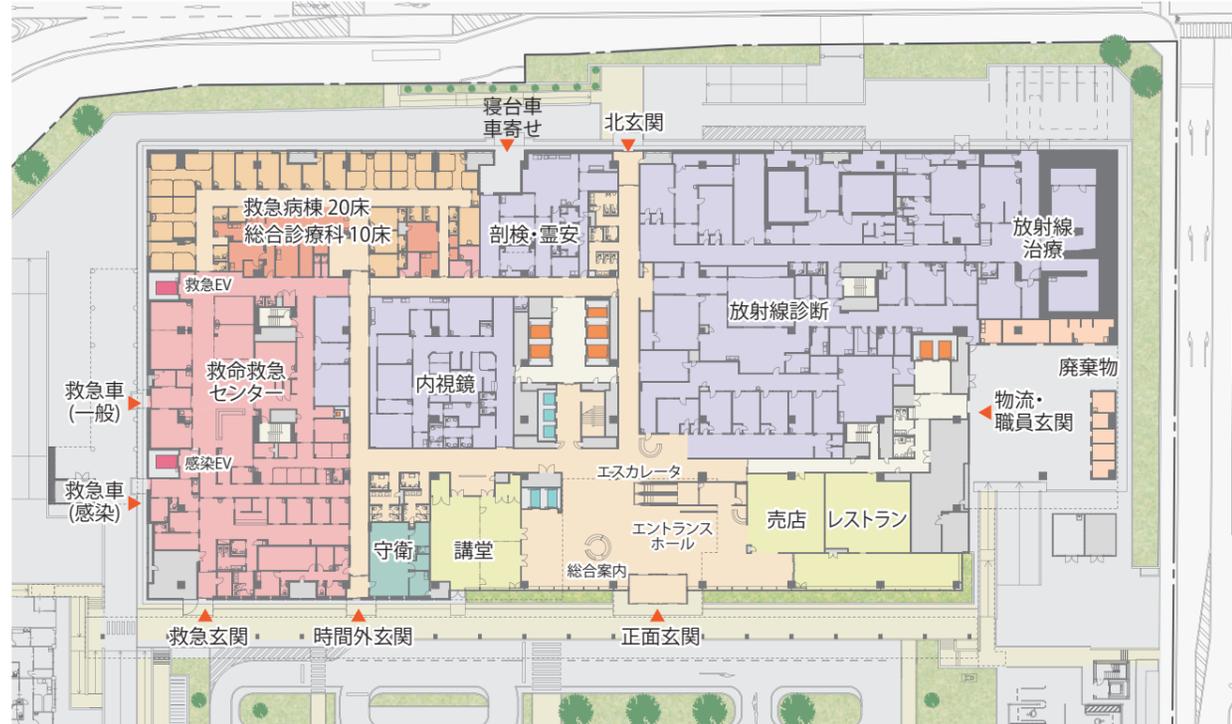
- 免震構造、屋上ヘリポートの設置、災害活動時の患者収容、設備の二重化など基幹災害拠点病院としての機能を強化します。
- 省エネルギーに努め、自然エネルギー利用を推進します。



## 1階 エントランス・救命救急センター・放射線診断

### ■患者・家族を迎えるエントランスと救急を中心とした診療機能

- ・エントランスホールを中心に、総合案内、講堂、売店等利便施設を配置し、県立病院としての親しみやすさ、賑わいを創出します。
- ・救命救急センターと連携が求められる放射線診断部門を集約配置、迅速な救急医療活動を実現します。
- ・救命救急センター内の救急エレベータは、3階手術・ICU部門、4階精神、5階分娩、および屋上ヘリポートと直結させます。



## 2階 総合受付・外来・検査

### ■外来関連機能をワンフロアに集約

- ・1階からエスカレータを昇った正面に、総合受付、総合待合、患者・家族の相談機能を集約した医事・地域医療支援センターを配置します。
- ・回遊動線に沿って、ブロック受付、待合が並ぶ、高齢者にもひと目でわかる「ワンループ外来」を計画します。
- ・外来診療に関連する化学療法センター、臨床検査、生理検査部門をループ上に配置します。



## 3階 手術・ICU

### ■急性期医療機能の中核を配置

- ・手術部門、集中治療部門 (ICU)、臨床工学部門 (ME)、中央材料滅菌部門、病理部門を集約配置し、充実した高度急性期医療を提供します。
- ・救急エレベータにより、1階救命救急センターから、手術や集中治療部門へ迅速な患者搬送を実現します。
- ・職員の更衣室、当直室を集約して配置し、職員の厚生施設の充実を図ります。



## 4階 管理部門・供給部門・精神医療センター

### ■管理部門・供給部門の集約、プライバシーの確保された精神医療センター

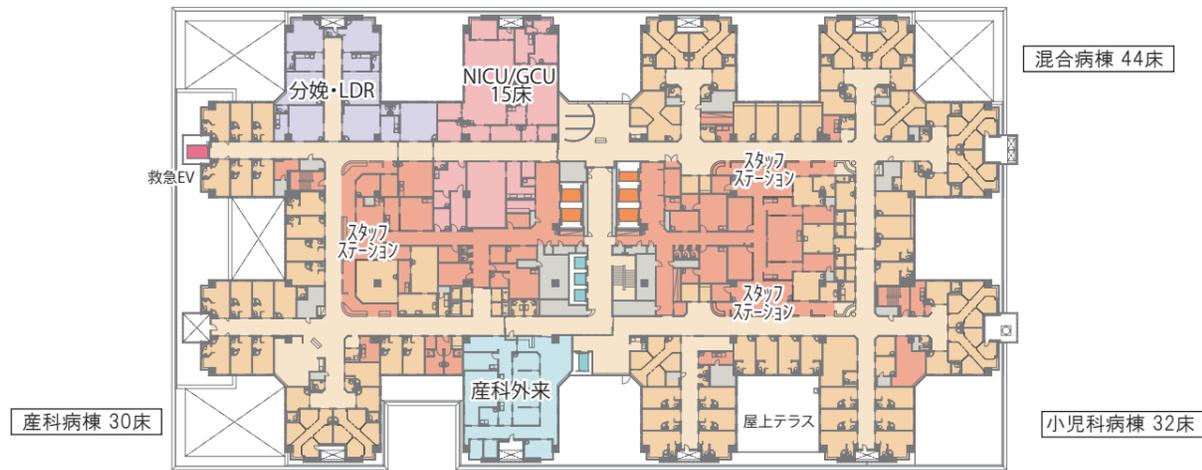
- ・職員同士のコミュニケーションを誘発するワンルームオフィス形式の管理フロアを計画します。
- ・搬送用エレベータに近接して供給部門を集約配置します。
- ・精神医療センターは、病棟、外来、デイケアを同一フロアに配置し、スタッフ同士の緊密な連携を推進します。



## 5階

### ■産科外来を入院フロアに配置、小児科と産科の連携

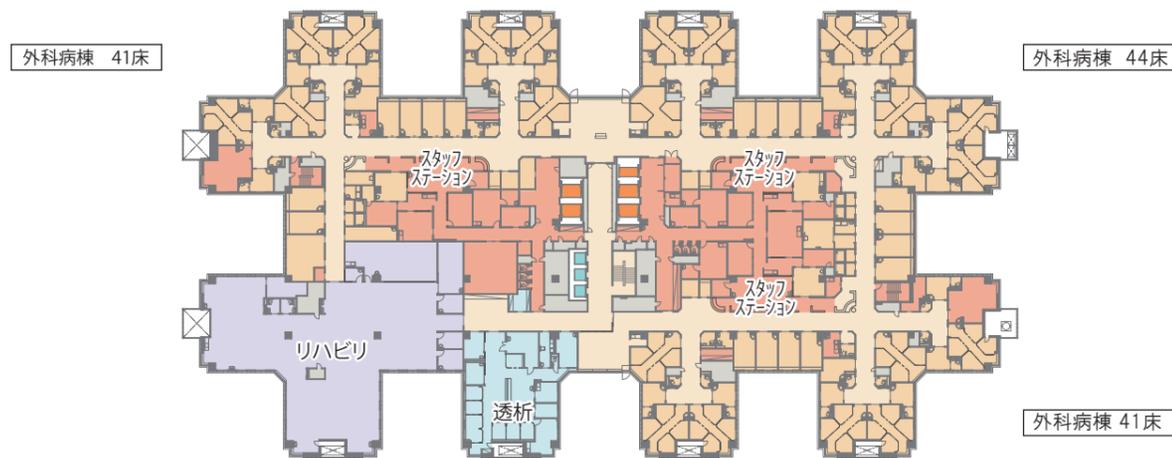
- ・分娩・LDRとNICU/GCUを隣接配置するとともに、同フロアに小児科病棟、産科外来を配置し、充実した周産期医療を提供します。



## 6階

### ■リハビリテーションを備えた外来系病棟

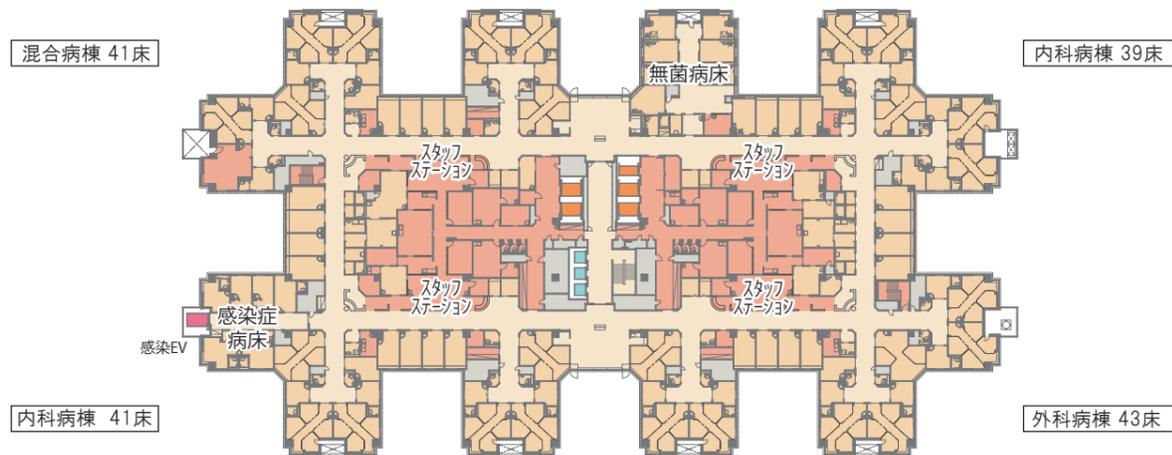
- ・外科系病棟フロアとリハビリテーションを同フロアとし、患者移動の負担軽減に配慮します。



## 7階

### ■1フロア4単位の効率的な内科系病棟

- ・感染症病床、無菌病床はそれぞれ独立した運用が可能な計画とします。



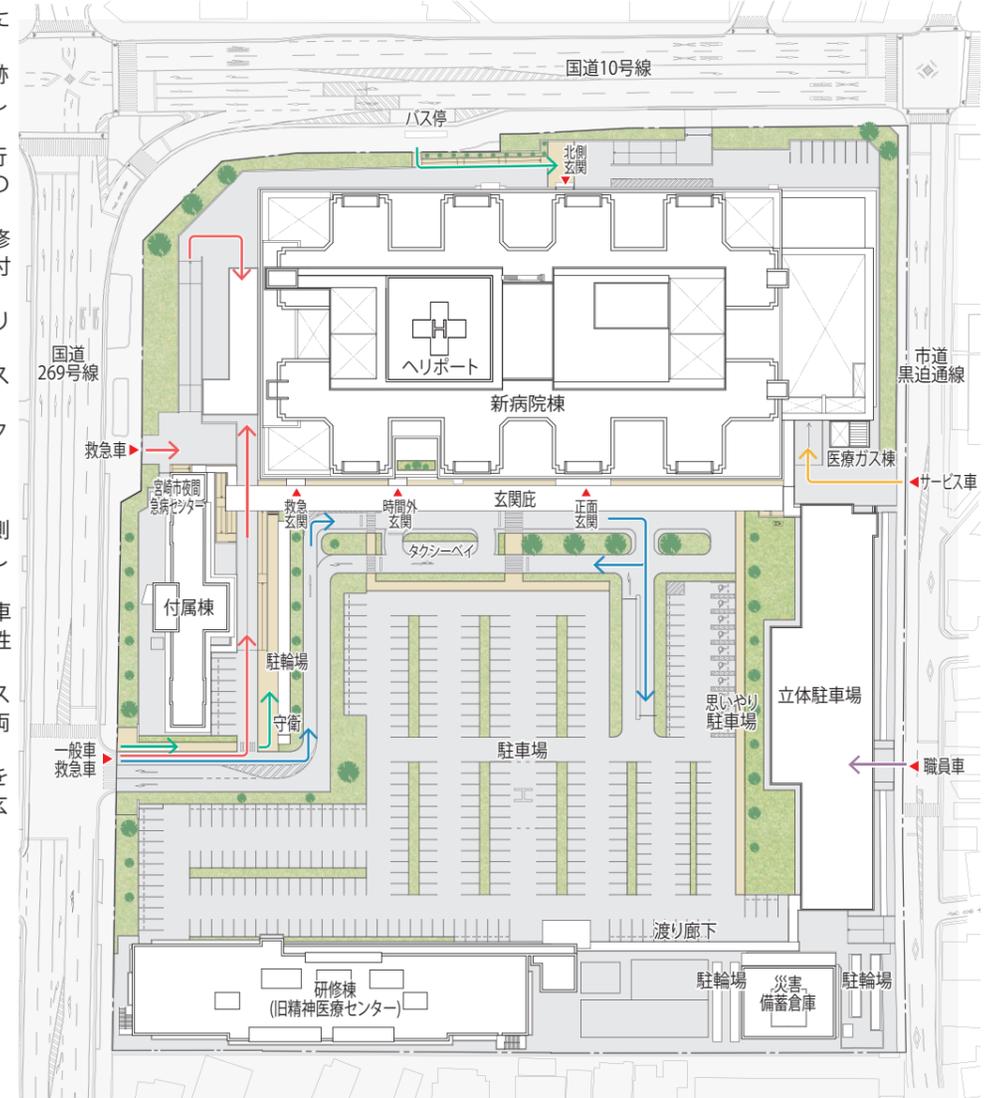
## 敷地利用計画と外部動線計画

### ■機能的でコンパクトな配置

- ・敷地北側の現病院駐車場エリアに新病院を配置します。
- ・敷地東側に立体駐車場、現病院跡の敷地南側に平面駐車場を整備します。
- ・緊急車両通行部は液状化対策を行い、災害時においても病院機能の維持を図ります。
- ・付属棟・精神医療センターは改修を行い継続利用。新病院とは屋根付きの渡り廊下で接続します。
- ・道路際に植栽を配し、緑のまちづくりに貢献します。
- ・バス利用者も最短で病院にアクセスできる歩道を整備します。
- ・敷地東側市道際を2mセットバックし、周辺交通事情に配慮します。

### ■明快な外部動線計画

- ・病院玄関の位置変更に伴い、北側信号交差点を西側道路側へ移設します。
- ・一般車、救急車、サービス車、職員車の出入口及びルートを分離し、安全性と機能性を両立します。
- ・敷地内には十分な車両滞留スペースを確保し、玄関ロータリー廻りの車両混雑を回避します。
- ・玄関ロータリーに面して大きな庇を設け、正面玄関、時間外玄関、救急玄関を分かりやすく配置します。



## 建物構成

### ■合理的な階構成と縦動線

- ・洪水時の浸水に備え、新病院1階床レベルを周辺地盤より約1.5m高く設定するとともに、地下のない階構成で安全性を確保します。
- ・1～3階は診療部門、4階は管理・供給部門、5～7階は病棟部門を積層した明快な施設構成を計画します。
- ・エレベータは用途別に患者・家族用、スタッフ・ベッド搬送用、物流用、救急用、感染用に分離し、垂直移動の効率性を確保します。

